

～水道50周年記念～ 水道だより

水道だより 特集号
平成21年11月5日発行

● 水道統計 ●
給水人口… 242,132人
給水戸数… 113,924戸
給水人口前年比… +1,026人

平成21年10月1日現在



草加市の水道は
給水を開始して
50周年を迎えました

旧水道課庁舎(現氷川浄水場)

水道50周年にあたって



「誇れる草加を
未来へ」

草加市の水道事業は、昭和34年4月に給水を開始してから今年で50周年を迎えることができました。

これも多くの市民の皆様のご理解とお力添えのたまものと、心より感謝を申し上げます。

草加市が水道の給水を開始した昭和34年度末の給水人口は1万4453人、1日の平均配水量は954立方メートルの規模でのスタートでしたが、平成20年度末には給水人口が約16倍の24万1670人、1日の平均配水量は約77倍の7万3795立方メートルとなりました。その間、大規模団地の造成や東武伊勢崎線と営団地下鉄日比谷線(現東京メトロ)の相互乗り入れなどにより急激に都市化が進み、人口増加に伴う水需要にこたえるため、配水管や浄水場などの施設整備を積極的に進めてきた結果、水道普及率は100パーセントとなりました。

しかしながら、将来にわたり、24万人を超える市民の皆様は「水道が支える快適な暮らし」という基本理念のもと低廉で安心・安全な水を供給するためには、浄配水場の耐震化や老朽施設の改築・更新など、施設の継続的な維持管理に多くの課題を抱えております。また、配水管の耐震化率は約30・6パーセントで、全国上位に位置づけられてはおりますが、まだまだ災害に強い施設とはいえません。

一方、水道事業の経営面では、徹底した人員削減と業務の合理化に努め、その結果、職員数は107名から47名の削減を行い、現在は60名となっております。

また、水道料金も施設の延命化や様々なコスト削減を行い、平成4年の改定以来、厳しい経済環境のもと、料金を据え置いた中での事業運営を行っております。

昨今は節水機器の普及や景気の影響などにより水需要は低迷し、水道収益は今後とも減収傾向が見込まれるため、水道事業は厳しい経営環境が続くものと予測をしておりますが、市民生活に欠かせないライフラインを預かる者として、平成20年度に策定しました「草加市水道ビジョン」に基づいた効率的な事業執行に取り組み、誇れる草加を未来へつないでいくための事業経営を進めてまいりますので、変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

草加市長 木下 博 儀

そうか水道50年の歩み

年・月
主な出来事

昭和30年1月	草加町、谷塚町、新田村合併により新草加町誕生
昭和32年2月	上水道布設が町議会において議決
昭和33年3月	上水道布設起工式を氷川浄水場建設予定地で挙行
昭和34年4月	水道課を設置
昭和34年7月	市制施行（人口3万4878人）
昭和34年11月	給水開始
昭和36年2月	水道課事務所を氷川浄水場内に移転
昭和36年5月	草加市民病院を開設
昭和36年7月	消防署、消防本部が発足
昭和37年9月	第一次拡張事業計画認可
昭和37年12月	松原団地駅開設
昭和38年8月	旭浄水場運転開始
昭和39年12月	第二次拡張事業計画認可
昭和40年7月	水道部を設置
昭和41年7月	草加工業団地が完成
昭和43年8月	市の人口が10万人を突破
昭和44年2月	谷塚浄水場運転開始
昭和45年11月	吉町浄水場運転開始
昭和45年3月	第二次拡張事業計画認可
昭和46年5月	中根浄水場運転開始
昭和47年5月	水道だより創刊
昭和47年6月	吉町浄水場内に水道部庁舎を移転
昭和49年5月	県営水道の受水開始
昭和50年1月	水道モニター制度を設置
昭和51年1月	水道事業運営審議会を設置
昭和52年3月	第四次拡張事業計画認可
昭和53年3月	八潮市と災害対策用連絡管を接続
昭和53年6月	給水車を購入
昭和54年9月	第1回草加市民まつりを開催
昭和54年12月	氷川浄水場を災害用施設に改良
昭和55年4月	新栄配水場運転開始
昭和58年4月	公共下水道供用開始
昭和62年3月	草加松原が日本の道100選に選定
昭和63年7月	水道部において下水道使用料の徴収開始



吉町浄水場建設風景



さく井(井戸を掘っている)風景



旭浄水場の風景



第1回草加市民まつり(現 草加ふささら祭り)風景

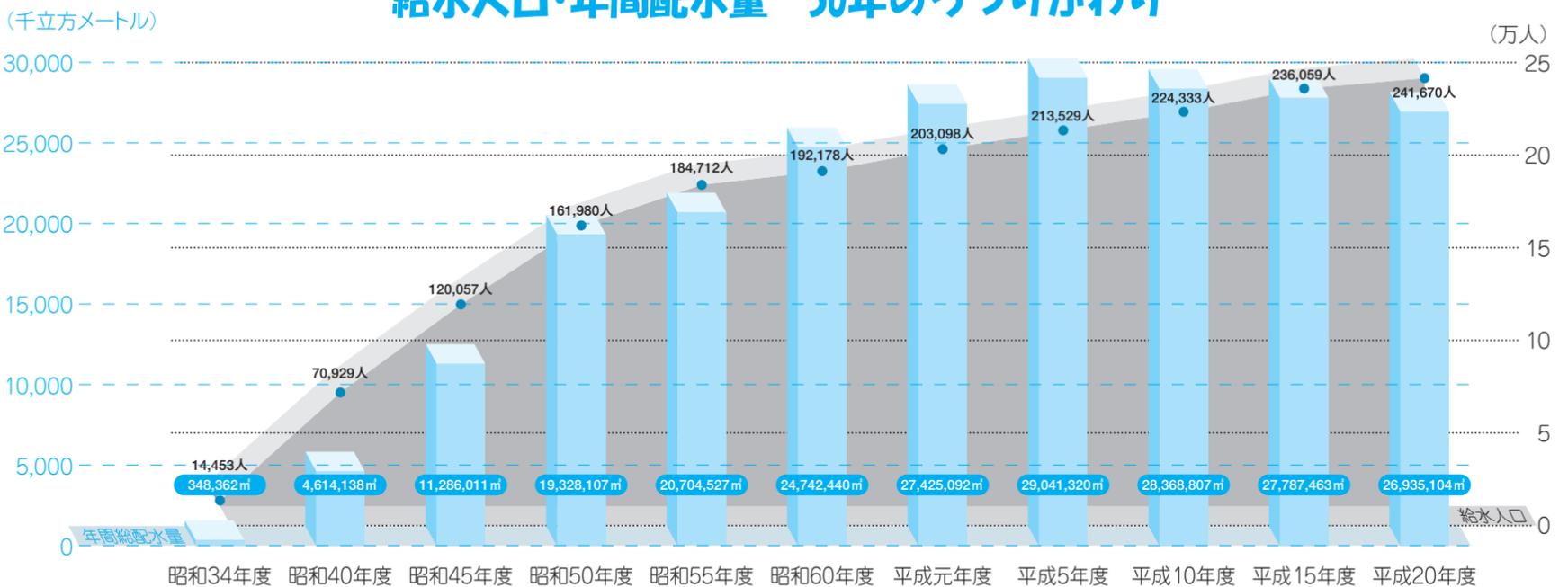


揚水(井戸から水を汲上げる)試験風景



市制祝賀会場風景

給水人口・年間配水量 50年のうつりかわり



水道が支える快適な暮らし

立川 禮子 様

草加の水道について勉強したいと水道モニターに応募したのですが、浄水場の見学、水質の検査等を見て、草加の水道に対する信頼を高めました。水道部で働く方々の努力で値上げをしていないということもとても嬉しく思いました。

草加の水道を信頼して以来、水は買いませんし、浄水器も取り付けていません。安心して水道水を使えるということは、水道に対して最も期待するところです。今後もできる限り、値上げをしないで頑張ってください。日本は水のよい所ということを実感できるのがあります。

世取山 陽子 様

草加市の水道については何の知識もなく、ただ毎日を過ごして来ましたが、最近草加の水道事業に関し興味を持ち始めました。以前に草加井水の話を知ったことがあり、初めて口にする機会があったので飲んでみたところ、とても柔らかで美味しい水で大変驚きました。家に安全に水が運ばれるには配水管が老朽化してはいけません。工事ばかりして…と思いがちですが、その工事が必要不可欠なことと知りました。草加の水がいつまでも安全であるよう心がけていけたらと思います。

法野 裕子 様

草加に引っ越してきて5年。草加の印象は、「川と緑」です。その「川と緑」から連想できるものといえば、美味しい水でした。水が美味しく飲めるためには、もちろん水質も大事ですが、蛇口をひねればすぐ飲めるという安心感も必要ではないでしょうか。給水開始50年、安定した供給はもちろんです。利用する私達も限りある資源として感謝し大切に利用したいと思います。

小西 夏江 様

「安心して飲める水」といえば、いつの頃からか家庭用浄水器や、市販の水を使用しておりました。

今回、水道モニターになり、「水道水」について、少しでも勉強というか考える機会に恵まれました。

蛇口をひねったら水が出てくるのは当たり前だと思っていました。なのに大切に使用していただろうかと、反省しました。何事もそうですが、様々な労力等が費やされていることを再認識することができました。改めて「水」の大切さと共に、草加市の水道水は安心して飲める水であることを学ばせていただきました。

水道モニターの皆様ありがとうございました。なお、今号で掲載できなかった方については、12月5日号に掲載させていただきます。

(順不同)

平成元年2月	第五次拡張事業計画認可
3月	市の人口が20万人を突破
4年2月	草加駅東口再開発ビル「アコス」オープン
6年3月	浄配水場の集中管理システム稼働
7年3月	防災資材倉庫が完成(氷川町)
8年7月	阪神・淡路大震災に伴う復旧支援のため職員を派遣
9年3月	水道料金徴収事務を法人委託
10年2月	防災資材倉庫が完成(草加3丁目)
12年3月	配水管の全ての口径に耐震継手管を使用
14年3月	小中学校の防災備蓄倉庫に緊急時浄水機の配備
16年7月	第六次拡張事業計画認可
17年3月	水道料金のコンビニエンスストアでの収納を開始
18年3月	草加市水道部ホームページ開設
19年1月	草加松原が「遊歩百選」に選定
20年9月	新市立病院開院
21年3月	新潟県中越地震に伴う応急給水活動のため職員を派遣
21年4月	水道管路管理システム(マッピングシステム)の構築
21年6月	八潮市、越谷市と災害対策用連絡管を接続
21年8月	水道事業ガイドラインに基づく業務指標を公表
21年12月	小中学校の防災備蓄倉庫に風船式水槽の配備完了
21年3月	直結増圧給水方式を導入
21年4月	市指定避難場所へ風船式水槽を配備
21年11月	ペットボトル水「草加井水」製造
21年3月	市制施行50年を迎える
21年4月	草加市水道ビジョンを公表
21年4月	水道50年を迎える



草加井水



緊急時浄水機



小千谷市での応急給水風景



風船式水槽

草加市水道モニターの皆様から水道50周年にあたり投稿していただきました。

杉浦 洋子 様

草加生まれの私が子供の頃、我が家の水は井戸から汲み上げていた。台所から少し離れた所にあった手押しポンプで、ガッチャン、ガッチャンと体を使って汲み上げるのをそれほど苦にも思わなかった。当たり前のように使っていた。そのうちに水道が引かれ、蛇口を捻ればいくらでも水が出る。便利で楽だと思った。今では、その便利さが当たり前になり、有り難さを忘れてしまっている。井戸水の頃は、必要最小限しか使わなかった水を水道では、出しっぱなしにするなどムダに水を捨てていることが多い気がする。これからも水道の有り難さと便利さを忘れず、節水に努めようと思う。

櫻本 武彦 様

私の草加の水道の思い出は、50年前小学校6年生頃に遡る。その頃の子供の家での手伝いは、多くは風呂の水入れがあった。当時は、水道はなく井戸から水を手動式ポンプで汲み上げ、バケツで風呂まで運ぶ作業があった。バケツを満杯にするには、ポンプの柄を上下に10回ほどやらなければならず、ましてや風呂をいっぺんにするにはバケツで50回ほど運ばなければならず大変な仕事であった。このような状況での水道が引かれた時の喜びは、今でも忘れられない。蛇口を捻れば水が出る。何もなくても風呂がほしいになる。特に母親の喜びは大変なものであった。

武内 紀洋子 様

水道50周年おめでとうございます。昭和42年から草加に住み、第二の故郷の草加の方が長くなりました。その頃は、井戸のポンプから水を汲み上げて水道に繋がっていませんでした。冬になると水道管が凍って水が出なくなったりしていました。あれから40年、今はその水が、きれいで安心して美味しく飲めるのですから素晴らしいと思います。大変な努力を重ねられて今の草加の水道があると思います。これからも、草加の水道が安心で、おいしい水が飲めますことを願っています。

8月8日(土) 水道50周年記念イベント

水とのふれあい広場を 開催しました

水道部では、そうか水道50周年を記念し、8月8日(土)に吉町浄水場内で「水とのふれあい広場」を開催しました。

当日は、611名の方々が参加されて、大変な賑わいをみせていました。

「水とのふれあい広場」では、草加の水道に関するクイズラリー、水道アンケート調査、起震車を使った震度7体験、水道防災器具の展示、「草加井水(そうかいすい)」の配布、かき氷、ヨーヨー釣り、綿あめ、魔法の蛇口など多くのイベントを行いました。



特に「草加井水」で作ったかき氷の前には長い行列ができ、大変好評でした。

噴水プールでの水風船釣りに夢中になる子ども達



「草加井水のかき氷」の前は長い行列になっていました。



水道50周年記念「草加井水」を

お譲りします!



そうか水道50周年を記念して「草加井水」を製造しました。水道部では市民の皆様のご要望が多ことから、「草加井水」を30箱限定でお譲りしています。

なお、製造原価でお譲りすることから、勝手ながら1箱単位とさせていただきます。取扱いは水道部において窓口対応とさせていただきますのでご了承ください。

●価格 1箱 2000円(500ミリリットル 24本入り)

※1本あたり約83円(製造原価)

●場所 吉町水道部庁舎(午前8時30分から午後5時まで)

●取扱期間 平成22年3月31日まで(土日・祝祭日を除く)

※限定300箱がなくなり次第終了となります。

詳しくは、水道部ホームページをご覧ください。

水道部ホームページ: <http://www.soka-waterworks.jp>

図 経営管理課管理係 ☎0255-3131

水道50周年記念「ポスター展」を開催します!

水道部ではそうか水道50周年記念として、市内の各小中学生を対象にポスターコンクールを実施しました。その中から選ばれた優秀作品を水道50周年記念「ポスター展」で展示します。

是非、ご来場ください。

☆展示する日程

日	時	場所
平成21年11月9日(月)～11月13日(金)	8時30分～17時00分	市役所ギャラリー
平成21年11月17日(火)～11月26日(木)	9時00分～21時30分	中央公民館ギャラリー
平成21年12月1日(火)～12月20日(日)	10時00分～21時30分	アスカレリア「アソラ」 アコス南館(イトーヨーカドー6F)

図 経営管理課管理係 ☎0255-3131

水に関する豆知識! みんなで読んでみよう!

「水道水」を飲むのは節約上手?

「100円」で買えることのできる水の量を比べると、2リットルのペットボトルだと1本ですが、水道水ではペットボトル310本分の約620リットルを買えることができます!

また、水道水は「水道法」という法律の50項目の水質基準を満たしていても安全です。次号(12月5日号)では、水道水をおいしく飲む豆知識を掲載します。

地球上で人間が生活に利用できる水はどの位あるの??

地球上には、13億～14億立方キロメートルの水があるといわれています。その中で私たちの飲み水に利用できる水は、0.01パーセントにすぎないといわれています。

人間の体の中にはどの位水を蓄えているの??

成人男性でおよそ60パーセント、成人女性では50パーセントといわれています。

このように、水分量は男性が10パーセントほど女性を上回っていますが、逆に脂肪分は、女性が約10パーセント上回っています。

ちなみに、4～5歳の幼児で70パーセント、新生児では76パーセントくらいです。新生児の手足を触るとプヨプヨしているのは、水分量が多いからです。